

令和7年度事業評価シート(委員会まとめ)

【産業厚生常任委員会】

事業名	有害鳥獣対策事業
委員会評価	<p data-bbox="584 483 919 521">おおむね適正である</p> <p data-bbox="584 562 1433 1256">本事業は、有害鳥獣による農作物被害や生活環境への影響といった地域課題に対し、現場の実状に即した対策を継続的に講じており、一定の成果が見られる。また、地域住民との連携を重視し、市民参画型の取り組みとして定着しつつある点も評価できる。捕獲数の目標達成や、防護柵・センサーなどの新技術導入など、費用対効果を意識した工夫も認められる。一方で、猟師の高齢化や担い手不足、捕獲後の処理体制など、構造的な課題は依然として残されており、これらへの戦略的対応が今後の重要な課題である。総合的に見て、本事業は南あわじ市の中長期的なビジョンや地域振興計画に合致した、実効性の高い事業であると評価される。今後は、成果の可視化と課題の継続的検証を通じて、より持続可能で効果的な体制整備が期待される。</p>
事業に係る提言	<p data-bbox="584 1296 842 1335">改善し継続する</p> <p data-bbox="584 1375 1433 1630">本事業は、農作物被害の軽減や地域住民との連携といった面で一定の成果が見られ、地域課題に即した実効性ある取り組みとして評価される。一方で、猟師の高齢化や担い手不足、捕獲後の処理体制など、継続的な課題も明らかになっている。</p> <p data-bbox="584 1648 1433 1906">今後は、事業の枠組みは維持しつつ、担い手の確保・育成支援や、ICT技術のさらなる導入、制度面での見直し等の改善を加えながら継続することが望ましい。とくに、成果の「見える化」を通じて地域の理解と協力を促進し、より効果的で持続可能な体制の構築が必要である。</p>

令和7年度事業評価シート（委員会まとめ）

事業名 有害鳥獣対策事業

1. 委員の評価を踏まえた委員会の項目別評価

評価内容	評価基準	委員会の評価	評価コメント
市民（市）のニーズを把握した事業となっているか	① なっている	○	本事業は、市民や自治会から寄せられる苦情・要望に対応し、農作物の被害や生活環境への影響といった地域の実情に即した取り組みとなっている。防護柵や捕獲檻の設置など、現場ニーズに基づく対策が実施されており、地域住民との連携のもと、市民参画型の事業として評価できる。鹿・猪・猿などによる被害が依然多く、捕獲数を上回る個体数の増加が課題となっているが、農作業への影響の軽減にも一定の成果が見られる。国の補助事業と市の鳥獣被害防止計画を活用しながら、現地視察を通じたニーズ把握と対策の実行がなされており、今後は最終年度を迎える計画の検証とともに、持続的な取り組みが期待される。
	② どちらかといえばなっている		
	③ どちらかといえばなっていない		
	④ なっているとは言い難い		
事業の課題、問題点を認識できているか	① できている	○	本事業は、鳥獣被害の長期化・広域化、そして担い手不足や高齢化による地域対応力の低下といった構造的な課題を的確に認識している。柵や防護柵の維持管理、捕獲後の効果検証といった実施後の課題にも目を向けており、現場での実態に即した課題把握がなされている。特に、捕獲頭数以上に猪が増加している現状や、猟師の高齢化、処理施設整備の遅れなど、対応が追いついていない点も含めて問題を明確に認識している。猟師免許取得者による地域内での捕獲活動の事例も見られるが、柵の管理者の不足など、捕獲体制の強化が求められている。限られた財源の中での対策には限界もあり、今後は他地域の成功事例の調査や、根本的・基本的対策の再検討を含めた戦略的な見直しが必要である。
	② どちらかといえばできている		
	③ どちらかといえばできていない		
	④ できているとは言い難い		
事業に工夫（費用、効率・効果）は見られるか	① 見られる	○	本事業では、限られた予算の中でも費用対効果を意識した取り組みが進められており、継続設置型資材の活用や、カメラ・センサーを用いた見回り支援といった新技術の導入が検討・実施されている点が評価できる。また、現地視察の結果からも、地域の実情に応じた工夫が随所に見られ、実効性のある対策が講じられているとの印象を受ける。一方で、忌避剤や撃退機などの導入は一部にとどまり、地域全体への普及は今後の課題であり、より一層の地域連携が求められる。また、鳥獣捕獲に対する報償の見直しや、捕獲後の処理体制の抜本的強化も必要であり、今後はこうした制度的な改善に加え、国・県の補助事業（例：野生動物共生林整備など）を効果的に活用しながら、地域と一体となって対策を強化していくことが期待される。
	② どちらかといえば見られる		
	③ どちらかといえば見られない		
	④ 見られるとは言い難い		
計画、ビジョン、施策等に見合った事業となっているか	① なっている	○	本事業は、地域農業の持続可能性を確保するという中長期的なビジョンに沿っており、自然と人との共生を目指す南あわじ市の方針に則った意義ある取り組みであると評価される。市の総合計画や地域振興計画の基本方針とも整合性が取れており、施策の方向性は明確である。 また、捕獲や防護柵の設置など、実施された具体的な施策により農作物被害の軽減が一定程度確認されており、実効性も認められる。 一方で、事業の持続可能性の確保に向けては、猟師の高齢化や担い手不足といった課題が依然として存在しており、今後はそれらへの対処や地域住民との連携強化が求められる。今後も、事業の成果や課題を定期的に検証し、柔軟に見直しを加えながら、より効果的な事業運営が望まれる。
	② どちらかといえばなっている		
	③ どちらかといえばなっていない		
	④ なっているとは言い難い		
事業の成果	① 成果がある	○	本事業では、捕獲箱による捕獲や防止柵の設置など、有効な対策が継続されており、有害鳥獣の年間捕獲数は目標値（3,600頭）を大きく上回る4,573頭に達するなど、一定の成果が現れている。また、地域住民との連携や意識の向上、啓発活動の進展も見られ、地域ぐるみの取り組みとして定着しつつある点が評価できる。 一方で、地域差や人手の継続的な確保といった課題も残されており、今後はこうした課題への対応とともに、成果の「見える化（可視化）」や効果の持続的向上に向けた取り組みが求められる。また、捕獲頭数と生息状況との検証や山の管理等、関係機関と協議の上今後の計画に反映すべきと思われる。
	② どちらかといえば成果がある		
	③ どちらかといえば成果がない		
	④ 成果があるとは言い難い		

2. 委員会評価

評価基準	委員会の評価	委員会の評価理由
良好である	○	本事業は、有害鳥獣による農作物被害や生活環境への影響といった地域課題に対し、現場の実状に即した対策を継続的に講じており、一定の成果が見られる。また、地域住民との連携を重視し、市民参画型の取り組みとして定着しつつある点も評価できる。捕獲数の目標達成や、防護柵・センサーなどの新技術導入など、費用対効果を意識した工夫も認められる。 一方で、猟師の高齢化や担い手不足、捕獲後の処理体制など、構造的な課題は依然として残されており、これらへの戦略的対応が今後の重要な課題である。総合的に見て、本事業は南あわじ市の中長期的なビジョンや地域振興計画に合致した、実効性の高い事業であると評価される。今後は、成果の可視化と課題の継続的検証を通じて、より持続可能で効果的な体制整備が期待される。
おおむね適正である		
問題がある		
不適正である		

3. この事業に対する提案

提案基準	委員会の提案	提案、提言内容
拡充する	○	本事業は、農作物被害の軽減や地域住民との連携といった面で一定の成果が見られ、地域課題に即した実効性ある取り組みとして評価される。一方で、猟師の高齢化や担い手不足、捕獲後の処理体制など、継続的な課題も明らかになっている。 今後は、事業の枠組みは維持しつつ、担い手の確保・育成支援や、ICT技術のさらなる導入、制度面での見直し等の改善を加えながら継続することが望ましい。とくに、成果の「見える化」を通じて地域の理解と協力を促進し、より効果的で持続可能な体制の構築が必要である。
改善し継続する		
現状のまま継続する		
縮小する		
廃止・休止する		